

一般 菊川市におけるスポーツ改革

本田 高一（菊川ゆめ未来）



平成23年4月に総合型地域スポーツクラブ「アプロス菊川」が設立された。新しい組織が時代の変化に伴い生まれたのならば、既存組織と上手く融合させるなどの改革を行い、予算を使わなくとも有益な事業を展開し、生まれた予算を公園整備など、市民が楽しむフィールドの運用に回すことが必要ではないかという観点から質問した。

◎ 今後の菊川市においてスポーツ振興の具体的な方針を伺う。

△ 第2次菊川市スポーツ振興基本計画の中で、スポーツ団体の自立支援、交流、情報交換などに取り組んでいるが、それぞれの団体に目標や特徴があるため団体の融合の検討には至っていない。現在、中学校部活動の地域展開においては、菊川市スポーツ協会、スポーツ少年団、アプロス菊川が連携して取り組んでいるところである。その他スポーツ団体においても組織の在り方について考えていく必要があると考えている。

◎ 既存組織の継続にとられず、

健康づくり、生涯学習などを新しい時代に合わせた組織や方法で推進する考えがあるか伺う。

△ 各自治会に依頼している各種委員を新しい組織に組み直すことは、それぞれに成り立ち、目標、特徴があるので難しいと考える。スポーツ振興基本計画を振興していくための庁内連絡会には、スポーツ推進委員も含め、スポーツによる健康づくりや地域づくり、それらにかかわる子供から高齢者にわたる施策を所管している部署がかかわっているので委員が実施する業務についても集約や連携ができるよう、調整していく。



アプロス菊川ノルディックウォーク教室

一般 犯罪が起こらない強いまちづくり

松永 晴香（みどり21）



SNSで『闇バイト』を募集して行う犯罪が、近年大きな社会問題となっており、防犯対策への意識をより高めなければなりません。本来であれば、地域に住む市民の目での見守りによる防犯が一番望ましいものと思われませんが、共働き世帯・高齢者世帯の増加により難しいのが現状となっています。本市としても高齢者世帯・共働き世帯のこともたちの安全安心を守るため早急な対策が必要と考え質問します。

◎ 菊川市ではどのようにして防犯をしていくのか、今後の方向性を伺う。

△ 行政、警察、防犯協会、自治会などが連携した活動により市民の防犯意識高揚を図り、個人と地域全体がつながりを持って地域ぐるみの防犯活動を推進していくことが不可欠であると考えている。

◎ 防犯カメラの設置状況、件数はどのようになっているか。

△ 市役所本庁舎、庁舎東館、地区センターなどに25カ所、市営の駐輪

場に1カ所、堀之内小に3カ所。

◎ 近隣の市では通学路に防犯カメラを設置する補助金を出しているところがあるが、通学路はどのように考えるのか。

△ 学校と防犯対策を協議し、カメラの設置も含め検討していく。

◎ 個人宅への防犯に対する補助金等は。

△ 現状では検討の段階になっていない。まずは防犯灯設置事業によって地域の防犯力を高めていく。

